

φαρισαῖος

ファリサイオス

知っておきたいキリスト教のことば (175)

ファリサイ派 ふありさいは

「ファリサイ派」とは新約聖書に出てくるユダヤ教の一派です。当時ユダヤ教には、サドカイ派、エッセネ派、ファリサイ派という三大宗派がありました。そのうちサドカイ派は大祭司ツァドクの子孫とされ、神殿祭司職を独占していました。そのため彼らは裕福だったようです。またエッセネ派は財産を共有し、独身主義・菜食主義を貫いていました。洗礼者ヨハネはエッセネ派に近い存在だと言われています。

そしてファリサイ派ですが、その言葉の語源は、「分離する者」です。彼らはユダヤ人のアイデンティティを堅持するために結成されました。そして律法および口伝伝承(昔の人の言い伝え)を、厳しく守っていたようです。清浄規定・食物規定・十分の一の献げ物・安息日などを自分たちが遵守することはもちろん、周りの人たちにも守るように勧めていきました。

そのため彼らは一見すると、「敬虔なユダヤ教徒」だと思われていました。しかしイエス様は彼らに対し、律法を形式的に実行していることや、本来の精神を逸脱していることを指摘します。

罪人などを「汚れた者」として排除(分離)するなど、律法を与えられた神さまの愛とかけ離れた彼らの行動を、イエス様は「偽善」だと糾弾するのです。

わたしたちも決まりを守ることだけに固執し、また人に対して「こうありなさい」と押し付けていくなれば、「ファリサイ的」になってしまうのかもしれない。

ちなみに70年のエルサレム神殿崩壊によって、神殿祭司であったサドカイ派は消滅しました。それ以降ユダヤ民族を再考したのは、ファリサイ派だったそうです。

今回は「福音」です。お楽しみに。



「律法学者とファリサイ派に災いあれ」
ジェームズ・ティソ(1836～1902年)

主は言われた。「実に、あなたたちファリサイ派の人々は、杯や皿の外側はきれいにするが、自分の内側は強欲と悪意に満ちている。

(ルカによる福音書 11 章 39 節)

